

「持続可能な観光のためのビジネス標準
ホワイトペーパー」 5. 評価システム
に関する検討

2023. 10. 19.

JEC観光検討会

1. 評価システム(「ビジネス標準」ホワイトペーパー)

《提案のポイント》

- 1) 実践者の‘実践に対する自己評価’
- 2) 自己評価は、CMMIを観光へ適用した成熟度レベル(レベル0、1～5)で評価
 - －良い取組みとは、‘実施事項を、設定した期限までに予算内に確実に遂行すること’を反映した評価
- 3) 自己評価項目は、各カテゴリーの実施事項を、実践者が優先的に取り組むべき観光の優先項目(A.～E.)に再構成して評価
- 4) 実践者の実施事項および自己評価情報を、ネットワークを通じて公表
 - －購入者がEPsを購入する際、持続可能な観光を識別することが可能となる評価情報



【狙い】 購入者がEPsを購入する際、持続可能な観光を識別することが可能となる評価情報

“識別することが可能”とは？

- －カテゴリー別の実践者(自己評価者)間におけるSDGs取組みの差異が判別できること

《条件》

- ① 評価基準は実践者間におけるSDGs取組みの差異が可能な限り顕在化するものであること
- ② 実践者による‘実践に対する自己評価’基準は、‘良い取組み’を評価するものであること
- ③ 公表される評価情報は、公平な(実践者間の共通認識による)評価基準において評価されたものであること

【課題】

- 1) ‘再構成された優先項目(A.～E.)単位に各カテゴリーの実施項目を評価する’ことは、実践者間の取組み差異により‘EPsを購入する際の持続可能な観光を識別する’評価情報としては情報量が少ない
- 2) 「ビジネス標準」に記載の実施項目の表記は、自己評価者間の評価判断に曖昧さを生じる

2. 評価システム — 評価基準の活用案

公表される評価情報は、‘公平な評価基準(自己評価者の共通認識)において評価されたものである’ことを確保するために…

(案1) 実践者(自己評価者)に、実施事項を補完する可能な限り多くの情報(例示列举)を予め提示し、実践者(自己評価者)は、これらを参考に取組みの自己評価をする

(案2) 実践者(自己評価者)は、夫々に取組みを自己評価し、それを基に評価組織(JTREC?)側に予め定めた評価基準に照らして評価を確定する

(例) 4.2 宿泊施設

6.4 「持続可能な真水の供給とリサイクルを確保する」

6.4 「水の消費量を最小限に抑える(ために節水装置を使用する)」

実践者が自己評価するにあたり、その実施事項に関する認識(理解)により、評価に差異が生じる懸念がある



考えられる取組みの例示列举(知見や生成AI等からヒントを得る)

⇒ 評価基準として活用する(案)

- ・トイレ洗浄水への雨水利用
- ・植栽散水への雨水利用
- ・シャワー水を浄化しトイレ洗浄水に利用(「グレーウォーターシステム」)
- ・洗濯機の再利用水利用装置の設置

- ・節水シャワーノズルと節水トイレの使用(実施事項に例示)
- ・シャワーの使用時間を短縮する - ゲストにシャワーの使用時間を意識し、節水を心がけるよう促す
- ・水の漏れを防ぐ - 定期的に点検や修理を実施する
- ・無駄な使用を防ぐ - 水の使用中に蛇口を閉める、シャワーの水圧を低くする、洗濯機や食器洗い機を満杯にしてから使う
- ・ゲストとは分かり易い具体的な言葉でコミュニケーションを取る(×「節水を！」)

《以下、手持ち》

評価システム（「ビジネス標準」ホワイトペーパー）

表1 に実践者の自己評価結果を表示した例を示します。

表における数値は各持続可能な観光の優先項目における成熟度レベルを示しています。

評価値0 は、実施事項はあるが、事業者がまだ取り組みに着手していない状況を示します。

空欄は、その分類に該当する実施事項がないことを示しており、例えば、レストランは、文化遺産保全や観光地管理には寄与しないこととなります。

持続可能な観光の優先項目 カテゴリー項目 実践者	A. 雇用創出・ 産品販促	B. 自然環境保護	C. 文化遺産保全	D. 観光地管理	E. その他 持続可能な 観光の優先項目
4.1 レストランABC	1	2			1
4.2 ホテルABC	2	1			1
4.3 ABC鉄道		2			0
4.4 観光地ABC	2	3	1		1
4.5 土産店ABC	1	2			
4.6 ABC興行	2	1			0
4.7 代理店ABC	1	2	2		1
4.8 自治体ABC	1			3	
4.9 体験プログラムABC	1	2	2		1
4.10 旅行者ABC		2	1		0

4.2 宿泊施設(例:ホテル)の場合、評価項目はA、B、Eの3項目であり、Epsの購入者は、これにより事業者の差異を識別する

《事例》

カテゴリー (4.2宿泊施設)	A	B	C	D	E
4.2 ホテルABC	2	1			1
4.2 旅館DEF	2	0			2
4.2 ホテルGHI	2	2			0
4.2 旅館JKL	1	2			1

4.2 宿泊施設4事例の場合、評価項目3項目では差異が顕在化し難く、Epsの購入者は、これにより識別することは難しいのでは？

評価システムー 評価の単位（「ビジネス標準」 例:4.2 宿泊施設）

《実施事項》

- 6.1 水リスク評価の計画がある
- 6.3 下水処理を実行する
- 6.4 持続可能な真水の供給とリサイクルを確保する
- 6.4 水の使用量を監視する 例えば、水源ごとに観光客一泊あたり使用量
- 6.4 水の消費量を最小限に抑えるために節水装置を使用する 例えば、節水シャワーノズルとトイレの使用
- 6.4 水の消費量の削減に目標を設定し、定期的なチェック記録を残す
- 6.4 従業員と訪問客は、水の使用を最小限に抑えるガイダンスを受講する 例えば、洗浄水の使用量を削減するため、連泊のタオルやシーツの再利用を促進する
- 7.2 再生可能資源の利用を促進し、さらに、総エネルギー供給に占める再生可能エネルギーの割合を監視、管理する 例えば、屋上のソーラーパネル
- 7.3 総エネルギー使用量を監視し、管理する
- 7.3 空気が過度に換気されず、冷却に過剰なエネルギーが使用されていないことを保証する空気循環装置を使用する
- 7.3 エネルギー使用を最小限に抑える機器を使う慣行を実施する 例えば、LEDライトを使用して電力消費を削減し、可能な限り「Energy Star」の電化製品を購入する
- 8.5 誰もが同一労働同一賃金を得ることができる
- 8.5 障害者の働く権利を保護する
- 8.8 産業での労働、児童労働、女性の権利を保護し、安全な職場環境を促進する
- 12.2 有機物で、公正に取引される、環境に優しい化粧品と室内用品を購入する
- 12.4 騒音、光、〔訳注：水・液体などの〕流出、侵食、オゾン層破壊物質、および空気、水、土壌汚染物質による汚染を最小限に抑えるための慣行を実施する
- 12.5 公共の場にごみ箱を用意する 例えば、ロビーとプールサイドに
- 12.5 残った訪問客用快適装備、中古家具、電化製品を慈善団体に寄付する
- 12.5 可能な限り、以前に使用された、または再生含有製品を購入する
- 13.1 気候リスク管理計画を策定し、宿泊施設がある場所での洪水、台風、干ばつなどの気候変動の悪影響を定期的に監視する
- 13.3 直接および間接の温室効果ガスの総排出量を監視、管理する
- 13.3 観光客一泊あたりのカーボン・フットプリントを監視、管理する
- 13.3 宿泊施設によって管理されているすべての排出源から大きな影響を与える年間排出を回避し削減するための措置を講じる
- 14.1 廃水と固形廃棄物は、自治体または政府が承認した処理システムに廃棄される 例えば、島嶼のリゾートでは、海洋汚染の削減のため、廃棄物を浜辺に直接投棄することはしない。
- 15.2 地域の植栽樹種を保存し栽培して、緑の造園および植物の維持の作業を強化する。
- 15.4 山の生態系の保全を確実にし、生態学的多様性を高める
- 15.5 野生生物や生息地を乱すおそれのある活動を認識し、軽減する
- 15.7 保護動植物の密猟や人身売買の禁止を観光客に教育する。

‘良い取組み(実施事項を確実に遂行する)’を評価する
⇒実施項目毎の評価？



実施事項を実践者が優先的に取り組むべき優先項目(A.~E.)に再構成し評価する
⇒優先項目に区分(要明示)した群毎の評価？

評価システムの検討 ― まとめと課題

実践者(自己評価者)による評価の公平性を担保しつつ、実践者(自己評価者)間の差異を顕在化するための代替案を検討した。

評価システムの目的(狙い)を確保しつつ、その効果はあるか、関係者(実践者(自己評価者)及び評価組織(JTREC?))の理解を得られるか、負担(作業量)はどの程度か、等検討すべき課題を残している。

附)

カテゴリー別実施事項を‘再構成された優先項目(A.~E.)’に再構成する’価値はあるが(SDGsの観光に対する要求から抽出設定されたもの)、活用方法は？

(以上)